

【中国からの日本ウォッチング—人民日報の日本関連記事から】

中国共産党機関紙『人民日報』は、当然ながら、党や政府の代弁者であり、その意向に沿って記事が編集されています。この大前提が崩れることはなく、したがって、読む場合には、読む人の判断力が問われることとなります。

その人民日報には、日本に関する記事も多く掲載されます。去年のように対日勝利60周年とか反日暴動といった事があると、日本批判の記事が圧倒的になることは避けられませんが、その一方で、特にWTO加盟以降、単に政治や歴史といった側面に限定せず、日本人の生活、日本文化のよさ、日本人の環境への取り組みなどを、率直に取り上げて紹介しようという傾向が顕著になりました。また、最近では、政冷経熱、いや政冷経涼だ、などという状況の中で、もっと日本と日本人を知ろう、という取り組みも始まっています。

そこで、この欄では、日本のマスコミが余り紹介しない、人民日報の日本関係記事を折に触れご紹介したいと思います。今回は、私が毎週執筆している中国時事コラムに掲載した過去の文の中から短いものを二つ選んで読んでいただきます。

トピック1

日本では飲食店の箸は使い捨て、料理はどこでも取り分け制だ。スーパーの食品は産地、賞味期限が明記され、腐りやすい食料は24時間で廃棄処分。調理師は資格制で公共衛生学、防疫学が必修だ。日本人の長寿の秘訣は衛生知識の普及にある。

(2004.6.24)

トピック2

日本人は“お客の身になったサービス”で競争している。新幹線に乗った。いつも座席は進行方向に向いている。禁煙車がある。自由席があり、乗る列車を変更できる。トイレが使用中か表示でわかる。他人の迷惑を考え、ケイタイ専用の防音室がある。身障者の乗下車サービスがある。トイレが3通り(しゃがむ・座る・立つ)用意されている。

(2004.8.22)